



## 家庭科 家庭分野とSDGsの推進

今年度、本校では「SDGsとキャリア教育との接続」という表現で、グランドデザインに明記し、学びの場を設定してきました。浜松市教育センター主催「SDGs研修」の中で取組を紹介する機会を得て、現在本年度の活動を振り返っています。

4月末を皮切りに、3回にわたってSDGs指導をしてくださる講師を招きました。その3回目は、浜松市フェアトレードタウン認定への立役者、杉山世子さんを迎え、講話と共に生徒とのパネルディスカッションを企画しました。これまでも生徒は、SDGsを意識・活動をしてきました。活動が進むほど新たな知識が身に付き、一步踏み込んで実践しようとするれば、これまで気づけなかった壁にぶつかる。SDGsを進めていくことの難しさに直面しています。パネルディスカッションでは、こうした生徒の発言を受け、杉山さんの苦労話を聞かせていただきました。

杉山世子さんは、会社「豆乃木」を設立しています。メキシコ・チアパス州のマヤビニック（生産者組合）から直接コーヒー豆を輸入・販売する仕事を通し、フェアトレードを推奨する活動をしています。最初の壁は、現地の人に受け入れられるまでの道のり。粘り強く、真摯に通い続けることでようやく得られた信頼関係ですが、現在再び、新型コロナウイルス感染の壁が大きく立ちはだかっているということです。

今回、パネルディスカッションを設定したことで、世界の裏側にある問題をより自分事として捉える機会になったと思います。杉山さんの会社は本校区にあるので、学校や地域をあげて、杉山さんの活動を応援できればと考えているところです。

SDGsの学びの場を増やすほど、消費生活とのつながりを再認識します。そして、必要となる知識が浅いほど、課題解決は困難であることに気づきます。本教科は他教科とつながって、特に消費者教育からSDGsにつなげる学び方をデザインしたいものです。問題提起と課題解決を果敢にし続ける「地球市民」として育てるため、児童・生徒の背中を押す役割があることを、私たちは忘れてはなりません。

人生は判断の連続です。自分に都合のよい方法ばかりを選択していたら、2030年を待たずに地球はとんでもないことになってしまいます。SDGsを学校教育全体で取り組むことは、キャリア教育にもつながり、意味あることと考えます。

第7回 東海・北陸地区小学校家庭科教育研究大会 愛知大会  
令和3年度 愛知県家庭科教育研究会 愛日大会 報告

令和3年12月1日（水） 愛知県長久手市 長久手市文化の家

大会研究主題 豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

～よりよい生活を願い、考え、実践する子供の育成～

提案・協議より

- ・ 家庭科の授業を軸に、他の教科や総合的な学習の時間における外部講師や出前授業の活用により、食についての豊かな体験を設定することで、児童の食への興味・関心を引き出すことができる。
- ・ 食分野では、家庭での実践の場を設定することで、学校で学んだことを生かしたり、振り返ったりすることができる。作った料理を家族に食べてもらったり、家庭で実践したことを友達と相互評価したりすることで、児童の意欲向上につなげることができる。
- ・ SDGsと家庭科の学習内容を関連付けることで、家庭生活と社会のつながりに気付き、持続可能な社会の形成に向けて、自分自身の生活を見つめ直すことができる。



講演 「指導と評価の一体化のための家庭科における学習評価」

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官  
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部  
教育課程調査官 丸山 早苗 氏

☆「知識・技能」の評価☆

- ・ 個別の知識及び技能の習得状況について評価する。
- ・ その他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。

☆「思考・判断・表現」の評価☆

- ・ 知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

☆「主体的に学習に取り組む態度」の評価☆

- ・ 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを評価する。

★ 家庭科における学習評価 ★

内容のまとめり

手順 1

内容のまとめりを確認

A 家族・家庭生活 (1) 自分の成長と家族・家庭生活  
A 家族・家庭生活 (2) 家庭生活と仕事  
:  
:  
C 消費生活・環境 (2) 環境に配慮した生活



手順 2

指導事項ア、イ、  
教科の目標の文末  
を変えて内容のま  
とまりごとの評価  
規準を作成する

「知識・技能」については、  
指導事項アの文末を「～を（について）理解している」、「～を（について）理解していると同時に、適切にできる」とする。  
※A（1）は文末を「気付いている」に直す。  
「思考・判断・表現」については、  
指導事項イの文末を「～について問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている」とする。  
「主体的に学習に取り組む態度」については、  
「家族の一員として、生活をよりよくしようと、〇〇について課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている」とする。



手順 3

内容のまとめりご  
との評価規準を具  
体化する

「知識・技能」については、指導項目を入れる。  
「思考・判断・表現」については、以下の4つ  
・～について問題を見いだして課題を設定している。  
・～について考え、工夫している。  
・～について、実践を評価したり、改善したりしている。  
・～についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。  
「主体的に学習に取り組む態度」については、以下の3つ  
・～について、課題解決に向けて主体的に取り組もうとしている。  
・～について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。  
・～について工夫し、実践しようとしている。



手順 4

指導と評価の  
計画を立てる

手順3の評価規準について、題材の中のどの位置で評価するのかを計画する。  
指導に生かす評価と、記録に残す評価の両方を大切にする。

【編集後記】

愛知大会に参加し多くの学びがありました。文科省教科調査官 丸山氏の講演は、  
学習評価について大変参考になりました。 浅間小学校 河村鮎美

## <5. 6部会の実践紹介>

### 鹿玉小学校 6年「持続可能な社会に生きる～よりよい選び方とは～」



<キッドを活用した実践>

#### 【成果】

5年生の「価格」「品質」「量」に加え、「安全性」「地産地消」の視点が加わり、多面的に考えられていた。「今晚の夕食は、カレー。あっジャガイモがない。どれを買おうか。」という導入のもと、家庭科としての視点「量」「価格」「品質」から、使い切れるか等の家族の人数などの家庭生活と結び付けて考えていた。

これまでの学習から、子供たちは「環境」に配慮した考えを出すことができた。例えば、直売所で買えば、輸送距離が短く新鮮で輸送に伴うエネルギーが少なくてよい。また、有機野菜は安全で、環境にやさしいなどの意見が出された。グループの話し合いや交流によって自分の考えを広げたり深めたりすることができる学習活動になった。

本単元では、自分の生活や身近な環境との関わり、環境に配慮した物の使い方を理解し、自分の生活の中から課題を見つけ、解決に向けて実践していくための様々な方法を考えることをねらいとした。環境に配慮した生活についてどのようにしたらよいか考えるために、「SDGs」を切り口にし、共通の課題「ジャガイモをどう選ぶか」を提示した。5年生で行った「筆箱を選ぶ」学習を想起させ、選ぶ理由と選ばない理由を考える活動を行い、どのような視点で決めていくかについて話し合った。5年生の視点「家庭生活」に「環境」という視点を加えることで、持続可能な社会に向けてどのように行動するとよいか考えた。

### 庄内小学校 5年「小物を作ろう」

「ソーイングはじめの一步」では、chrome bookを入れる袋にネームプレートをつける必要があったため、学習した縫い方を生かしてネームプレートを作ることを最終目標とした。ネームプレート作りの計画を立てる際には、児童はそれぞれ好きな形を描いて縫い取り部分のデザインを考えた。名前の縫い取りの裏側が見えないようにかがり縫いで裏を付けるパターンや、ボタンをつけるパターンなど、自分の技術力に合わせてデザインを決められるように教師がいくつかの見本を用意して示した。



<袋に付けたネームプレート>

#### 【成果】

最初は、玉どめや返し縫いなどの技術を習得するのに苦戦したが、自分がこれから実際に使っていくネームプレートを作るという目標をもつことで、児童は大変意欲的に製作に取り組むことができた。見本を見せたところ、「名前の縫い取り部分の裏側が見えない方が見た目がいい」と、ほとんどの児童がかがり縫いで裏を付けようと考えることができ、より質の高いものを目指していた。ネームプレートが早く完成した児童は、小物を自由に製作して良いこととした。すると、図書室の貸し出しカード入れや定規を入れる袋など、生活に生かせる小物入れを作る児童が多くいた。「ソーイングはじめの一步」の授業が終わった後も昼休みに製作したいと申し出るなど、裁縫が好きになったと意欲的に活動する児童が多かった。

#### <編集後記>

身近な生活に結び付けて学ぶことができる実践や、必要性を感じより良いものを作りたいと能動的に取り組むことができる単元構成の工夫を紹介させていただきました。確かな学力を保障しながらも、子供たちが自ら学びたいと思うような単元構想の工夫が必要であると改めて感じました。(大平台小学校 井嶋 良子)